

土木構造物荷重指針連合小委員会 第2回指針編集会議 議事録

○日 時：2006年7月6日(木)14:00~17:00

○場 所：土木学会 F会議室

○出席者：古田委員長、本城副委員長、佐藤幹事長、香月幹事、川谷委員、北原幹事、齋藤委員、澤田幹事、篠田委員、鈴木幹事、戸田幹事

○議事： 1) 前回議事録確認
2) 発題と討議
・ 指針原稿案についての討議

○配布資料： 2-1) 第1回編集会議 議事録(案)
2-2) 作用指針 進捗状況の確認
2-3) 第 編 4 章 風作用
2-4) 第 編 6 章 雪作用
2-5) 第 編 7 章 温度作用
2-6) 第 編 8 章 波浪及び流体による作用
2-7) 第 編 9 章 地盤作用
2-8) 第 編 11 章 環境作用

○主な討議 (発言者、敬称略)

1. 前回議事録の確認

・ 佐藤幹事長により前回議事録の確認がなされた。

2. 指針原稿案についての討議

進捗状況の確認と今後の作業の進め方 について

・ 資料 2-2 に基づき、指針原稿の進捗状況の確認と、今後の作業の進め方の確認が行われた。

7月中に全章の1次原稿を準備し、8月中にクロスチェックを行う。クロスチェックの担当案は次頁の通り。

第 編

	主担当	コネクティブ担当
まえがき	古田	-
一般論（本文）	香月	古田/佐藤
付録 1 荷重のばらつきや不確実性と設計用荷重	鈴木	白木/佐藤
付録 2 統計的手法による作用モデルの構築	本城、篠田	古田/佐藤
付録 3 偶発作用の考え方	佐藤	本城/澤田/野津
付録 4 作用効果の組み合わせ	白木	香月/佐藤
付録 5 国際設計指針・基準等における荷重・作用の現状	佐藤	古田/鈴木
付録 6 各作用のリンク先，データベース等	戸田	篠田
付録 7 性能設計における作用・環境的影響指針 補足	佐藤	古田/香月

第 編

	主担当	コネクティブ担当
1. 基本方針	佐藤	古田/香月
2. 固定作用	佐藤	古田/白木
3. 走行作用	川谷、金、齊藤	横山/白木
4. 風作用	勝地	川谷/中山
5. 地震作用	澤田、中村	北原/鈴木
6. 雪作用	齊藤	佐藤/(高橋)
7. 温度作用	藤田、佐藤	北原/梶田
8. 波浪および流体による作用	長尾	/(合田)(福岡)
9. 地盤作用	鈴木、塚本	本城
10. 衝撃作用	榎谷、香月	佐藤/梶田
11. 環境作用	下村、松島、三島	
12-1 降雨作用	篠田	(宝)

第 編 6 章 雪作用 について

- 資料 2-4 雪作用修正原稿案について、齋藤委員より説明がなされた。
- 作用因子としていくつか列記されているが、管理計画など人為的なものは含めないほうがよい。明確なものとしては単位体積重量と積雪深ぐらいが考えられるが、再度整理する。(澤田、香月、他)
- 送電線の冰雪荷重といった原稿案では取り扱わない事象についても参考文献や情報のリンク先、データベースを示せるとよい。(川谷) 香月幹事から松島委員に情報提供を依頼
- 5.2 解説(2)の「降雪の深さ」という表現は、「降雪量」等の表現に修正したほうがよいのでは。

第 編 7 章 温度作用 について

- 資料 2-5 温度作用原稿案について、佐藤幹事長より説明がなされた。
- 「7.1 一般」には、温度作用に関する根本的なもの、取り扱う枠組みのみをを簡潔に

記述する。(鈴木)

- ・ 作用因子は、基本的に構造物外からの熱源(日照条件、気温、内容物温度・・・)とする。また拘束条件による影響についても述べる。(澤田、鈴木、他)
- ・ 溶接熱のように構造物に影響を及ぼすものは項目として挙げる。
- ・ 構造物の表面状態などコントロールできるものは作用モデルである。
- ・ 作用効果として、変形にも影響することを記述する。(古田)
- ・ 熱伝導解析についてはもう少し解説を加える。
- ・ 温度上昇そのものが問題となることがあることを記述する。
- ・ 温度作用とその他作用との力学的組み合わせについては、付録4(白木副委員長担当)で記述する。(付録4のタイトルを「信頼性理論に基づく作用効果の組み合わせ」「作用効果の組み合わせ」に変更する。)

第 編 8 章 波浪および流体による作用 について

- ・ 長尾幹事より提出された資料 2-6 波浪および流体による作用原稿案について、討議を行った。
- ・ 本文ハコガキは「8.1 一般」、「8.2 作用因子」、「8.3 作用(モデル)」とし、ボリュームが大きいので付録にまわせるものを検討する。

第 編 9 章 地盤作用 について

- ・ 資料 2-7 地盤作用原稿案について、鈴木幹事より説明がなされた。本原稿は前回指摘を受けた1次原稿案の修正原稿である。
- ・ 地盤反力係数を作用因子とするか、作用モデルとするかには議論がある。
- ・ 他の作用と同様に、「作用因子」、「作用(モデル)」の構成とする。全体構成については、本城副委員長も含め、担当で再度検討する。

第 編 11 章 環境作用 について

- ・ 下村幹事より提出された資料 2-8 環境作用原稿案について、討議を行った。
- ・ 第 編のその他の1~10章とは構成を変え、各環境作用ごと(塩害、中性化、凍害、アルカリ骨材反応、化学的侵食・・・)に現象の解説、作用因子、作用(モデル)、作用効果の項を記述する。

例 11.2 塩害による環境作用

11.2.1 一般

11.2.2 作用因子

....

- ・ 作用因子を挙げて、それに関する有益な情報、データを「付録」で示すことをメインとする。このとき、作用因子やモデルが不明なものは不明と記す。

次回開催予定

第3回編集委員会 9月21日(木) 15:00~17:00

立命館大学(びわこ・くさつキャンパス)

コーニングハウスII 1階 C506教室

以上